

NPO法人「森の家」に行ってきました

令和5年5月26日、心身障がい者部会の委員8名が施設見学研修として森の家を訪問しました。

森の家は昭和56年頃から知的障がい者親の会の活動により、本町初となる障がい者福祉施設の拠点となる共同作業所の設置が原点となっています。

その後平成5年に地域共同作業所森の家として開設しました。平成19年に特定非営利活動法人（NPO法人）の許可を受け、就労継続支援B型事業と中標津町地域活動支援センター事業を行っています。町内や近隣の障がいのある人たちに社会参加・生活自立の訓練の場として、利用者が将来に亘り楽しく、安心して、生き甲斐を実感できる働く場を提供

するために活動しています。

手芸・木工制作販売・もみ殻燻炭・園芸作業と野菜販売・しいたけ栽培販売・古紙回収、また受託事業として、町・企業・個人からの依頼の仕事もあり、清掃業務・個人等の草刈り・除雪等、地域の方々との交流にも力を入れています。

今回の見学・研修で学んだ事を今後の活動に生かしていきたいと思います。



煙の少ない特製薪



注文生産の木製花台

中標津町民生委員児童委員協議会
心身障がい者部会長 石崎 龍彦



◎本誌への意見や問い合わせなど、身近な民生委員児童委員にお寄せ下さい。

編集後記
今まで、すべての人達が数多くの制限や不自由さに耐え、頑張ってきた新型コロナウイルス対策も、5月から感染症法の分類が5類へと引き下げられたことにより、ようやく平常に戻りつつあるように思います。4年ぶりの中標津神社例大祭も少子化の中、神輿に参加されるお子さんが少なく苦労した町内会もありましたが、久しぶりに露店が並び、たくさん家族連れや浴衣を着て歩く人々など、活気に溢れる様子を見て、コロナ前に戻った感じがします。少子化が進む中、少しでも町内会の会員数が増え、地域や町内が潤えれば、子どもたちにとっても過ごしやすいい環境が整うのではないかと思います。

反面、今年の夏は体温を超える記録的な気温と、大雨により全国各地で甚大な自然災害が発生しています。災害はこれまでの生活を二変させ、財産を失い、心と体にさまざまな影響をもたらします。他人事ではなく、まずは自身・家族の身を守ることから「災害への備え」の意識を高め、平時から多種多様な取り組みが必要だと思います。

これからも地域に溶け込んだ活動に努めていきます。今後も「ふれ愛」をよろしく願います。

（川島 次夫）

民児協だより

ふれ愛



この広報誌は赤い羽根共同募金の助成を受けて発行しています。

=第62号=
令和5年9月発行

中標津町民生委員児童委員協議会
(中標津町役場町民生活福祉課内 ☎73-3111)

『なりて不足』にならないために



中標津町民生委員児童委員協議会

副会長 館下 裕典

今年6月初旬に全道民生委員児童委員協議会の会長・副会長会議が札幌市で開催されました。全道より600名近くの参加者が3年ぶりの対面による研修を行いました。その中で話題になった一つが「なりて不足問題」です。

中標津町においては、現在定員割れがなく56名の委員が地域ボランティアとして活動しています。しかし、全国においては24万人の定員中1万5千191人の欠員が生じています。昨今は民生委員児童委員に限らず、どの団体でもなりて不足問題が叫ばれ、次につなげる人材の確保が難しい状況にあるといわれています。

その団体の維持・継続に苦慮していると聞きます。中標津町民生委員児童委員協議会も次期改選時にはどのような状況になるか不安を感じるところです。

現在、予想もされない自然災害が、どの地域でも起こりうる時代です。また、「引きこもり」や「ヤングケアラー」など多種多様な問題が山積みな現代社会だからこそ、地域を知る民生委員児童委員は必要不可欠な存在であると思います。

中標津町民生委員児童委員協議会においても、欠員状態を作らないためにも民生委員児童委員の魅力ややりがい、互いに共有しながら、この活動の素晴らしさを伝えていきたいと思う今日この頃です。



令和5年度 中標津町民生委員児童委員協議会 道内研修の報告

■研修の概要

2023年6月19日(月)から6月21日(水)、南富良野町、富良野市、旭川市を研修先とした令和5年度中標津町民生委員児童委員協議会の道内研修が開催されました。松田吉正会長はじめ21名が参加しました。「コロナも少し落ち着いてきたことから、長距離の移動中の貸切バスの車中や、研修先での会食などで、互いに会話を楽しみ、参加者同士の懇親を深めるよい機会となりました。



北海道介護ロボット普及推進センター(旭川市)

研修内容は以下の通りです。「災害時における民生委員児童委員活動についての講演」「防災施設へみなくる」の見学(南富良野町)、「住民支え合いマップ研修」「富良野市役所新庁舎の見学」(富良野市)、「旭川点字図書館の見学」「北海道介護ロボット普及推進センターの見学」(旭川市)。



■「災害時における民生委員児童委員活動についての講演」

研修初日、南富良野町保健福祉センター「みなくる」を会場に、南富良野町の職員、民生委員児童委員の後藤健寿さん、本委員会会長で被災者でもある山内茂樹さんの三人から講演を聞きました。

講演では、2016年8月30日に発生した台風第10号豪雨による水害で「みなくる」が地域住民の避難場所となつたこと、本施設内、床上80センチまで浸水したこと、床上・床下浸水115戸の被害を受けたにも関わらず町民2,300人のうち死者を一人も出さなかつた事などが報告されました。町内会加入率が100%であることや住民の中に3・11東日本震災でボランティアに参加した人が核となつて南富良野町のボランティア支援を率先して取り組んだという報告が心に残りました。



南富良野町保健福祉センターでの講演会

■「住民支え合いマップ研修」について

研修2日目、昨年9月に新築、開庁された富良野市複合庁舎を会場に富良野市と中標津町の民生委員児童委員で混合の班をつくり、分かち合いの研修を行いました。

最初に松田尚美会長から富良野市民生委員児童委員協議会で取り組んでいる地域支え合いマップの説明を受けました。このマップは富良野市が提供する住民基本台帳を住宅地図をベースに、民生委員児童委員が地域で得た情報、特に、そこに住む住民同士の関係性を調査し、地図に載せていく仕組みです。この取り組みは負担も大きく、最初は反対の声も多かったそうですが、一人で負担を抱え込まず、グループで支え合う事で活動の継続が

可能となつたとの事でした。二人で抱え込まない」事の大切さを教えられました。

石垣 弘毅



富良野市民生委員児童委員との交流(地域支え合いマップの説明)



ファーム富田にて

フレンドリーサマーキャンプに参加して

フレンドリーサマーキャンプは子どもたちが互いにふれあい、ボランティアの協力のもと、野外活動を通じてボランティア精神とノーマライゼーションの理念を理解し身につけることを目的に平成6年より1泊2日で開催され、今年で27回を迎えました。令和2年から4年まではコロナの関係で中止してしまいましたが、今年はデイクャンプ(1日程)として復活しました。



2023/07/23 13



開村式後、5つの班でそれぞれ自己紹介。午前の野外活動「物作り」では、紙とペットボトルで飛行機を作り飛ばして楽しみました。昼食は、「カレーライス」ととても美味しかったです。午後から商工会青年部や青年会議所の方を中心に第二部の野外活動、「ストラックアウト」と「屋台」で楽しみました。最後はビンゴゲームで大盛り上がり。沢山の景品が用意されていて参加者も大満足。とても暑い日でしたが、参加した子どもたちは様々な人と交流を深め有意義な一日となったようです。

松本 毅